

〈算数科〉 1年

現在の分析

〈知識及び技能〉

- ・計算は、答えが10までの既習のたし算、ひき算を間違えずにできる児童が多い。しかし、まだ計算に慣れず、誤答する児童が数名いる。また計算カード練習では、計算速度に個人差がある。
- ・単位などの問題文の特定の言葉に気付かなかったり、きちんと読まなかつたりして、たし算かひき算か混同してしまう児童がいる。
- ・たし算・ひき算の計算の仕方は身に付いている。一方で「○と○で○になる」「○は○と○」といった数の合成・分解については理解度に個人差が見られる。また繰り上がり・繰り下がりに必要な10の合成・分解もスラスラ言える子とそうでない子といったように個人差がある。

〈思考力、判断力、表現力等〉

- ・問題文を読み取り、具体的に場面をイメージして立式することが難しい児童が数名いる。言葉だけでは、式の意味を十分に理解できていないので、個別に支援する手立てが必要である。

〈学びに向かう力、人間性等〉

- ・たし算やひき算が好きで、計算カードの練習に進んで取り組む児童が多い。
- ・教科書や計算スキルの問題を意欲的に取り組み、関心を示す児童が多い。

重点課題

〈知識及び技能〉

- ・計算カードのたし算・ひき算の練習を十分に行い、繰り上がりのあるたし算・繰り下がりのあるひき算に備える。
- ・数や計算について、解き方の基本型をもとにノートに解かせたり、解いた結果を読ませたりして全員が十分に理解できるようにする。

〈思考力、判断力、表現力等〉

- ・問題文を読ませ、どんな話なのかを確認しながら、「あわせて」や「のこりは」といったキーワードになる言葉に線を引かせる。具体的な場面が思い浮かぶよう絵や図を活用したり、計算ブロックを操作したりしながら、たし算で解くか、ひき算で解くのかを考えさせるようにする。

〈学びに向かう力、人間性等〉

- ・学習問題には進んで取り組むが、誤答を怖がったり、自分の意見に自信がもてなかつたりなど、進んで挙手ができない児童もいる。
- ・友達に自分の考えを伝える習慣をもっと付けさせる。

授業改善策

〈知識及び技能〉

- ・数や計算に関して全員が十分に理解できるよう、スモールステップでの授業展開を行う。
- ・個別に支援が必要な児童には、ヒントを出したり、一緒に考えたりと個別指導をする。
- ・数の合成・分解（特に10まで）を念頭で正しくできるよう反復練習の時間を適時取る。
- ・「10までのたし算・ひき算」で、正しい答えが出せるまで繰り返し練習をしたり、数の合成・分解を意識させたりさせながら、たし算やひき算の習熟をはかる。

〈思考力、判断力、表現力等〉

- ・たし算かひき算かを明確にとらえさせるために、図や計算ブロックを動かしながら立式をしたり、日常生活に結び付けて考えたりする活動を授業の中で多く取り入れていく。
- ・問題文を、図や半具体物に置き換えて考える習慣を身に付けさせる。また、問題文はどんな話なのかを抑え、わかっていることや聞いていることの文に着目させ、そこから考える指導をする。
- ・教材提示装置等を使い、ノート指導を徹底する。見やすいノート作りをさせることで、自分の考えをまとめられるようにする。振り返りもノートに書かせ、自己評価の習慣をつけさせる。

〈学びに向かう力、人間性等〉

- ・発表の場面では、一人で説明する。隣の席の子に説明する。みんなの前で説明するといったように、説明の場面を多くし、自分の考えに自信を持ちやすくさせる。
- ・「間違ってもいい。」という雰囲気作りをし、多くの子が手を挙げられるようにする。
- ・赤ペンで○をしたり、声かけをしたり、机間指導を充実させ、一人一人の意欲を引き出す。